

コード	504020101
記入日:	H22.6.10

事務事業途中評価表

課コード	125
課名	生涯学習課
課長名	西川義男
担当者	西下新吾

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	文化事業委託事業
----------	----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	5	政策名称	しまの誇り・文化の育成	款コード	10
施策コード	504	施策名称	伝統、文化の保存・継承と創造	項コード	5
基本事業コード	50402	基本事業名称	芸術・文化事業の充実	目コード	1
事務事業コード	5040201	事務事業名称	文化活動推進事業	細目コード	13
関連計画			法令・条例規則等		

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	住民	(対象指標1)	23,213人(H22.4.1現在)				
(対象2)	世帯数	(対象指標2)	10,679世帯				
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	子ども劇場、舞台劇、寄席、公演会、コンサート等を委託し開催した。事業実施件数5件、開催日数6日	①	***** 委託事業件数	***** 5件	***** 100%	***** 委託事業件数5件÷計画した委託事業件数5件	***** 平成21年度
		(達成率分析)	計画した事業を全て行う事が出来た。				
		②	*****	*****	*****	*****	*****
		(達成率分析)					
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
町内の文化活動の推進を図る為住民が企画・立案・実施できる機会を設け、住民参加型の文化活動の推進を図ると共に、生の芸術に直接触れることにより豊かな情操教育並びに住民の生活に潤いと感じられるような文化の提供を行う。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		①	***** 参加者数	***** 1,459人	***** 93%	***** 参加者数1,459人÷目標とした参加者数1,562人	***** 平成21年度
		(達成率分析)	文化事業委託として、劇、音楽、寄席、講演会等多種多様な企画の委託が出来た。今後もさらに住民が興味をもてる文化事業を実施したい。				
		②	*****	*****	*****	*****	*****
		(達成率分析)					

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 件	13	13	8	5	5					
	②										
成果指標	① 人	8,724	8,621	7,162	1,562	1,459					
	②										
総事業費C(A+B)	千円	14,763	14,515	9,078	5,685	5,437					
直接事業費A	千円	11,263	11,015	6,278	4,985	4,737					
人件費B	千円	3,500	3,500	2,800	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	14,763	14,515	9,078	5,685	5,437					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 文化事業の推進は町として支援していく必要がある。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由 時代の変化に関係なく、文化の推進は行わなければならない。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由 長崎県子ども舞台芸術祭典など、文化事業の推進であり、適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由 多種多様な委託事業を行えるようになった。また町民が企画・立案・実施するような事業も出てきた。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由 委託事業を増やすことにより、住民の企画力等が向上し、それにより住民参加型の文化活動が活性化し、本当に住民が望んでいる文化活動が出来る。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由 住民の文化活動の場が失われることで、文化事業の推進に影響がでる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由 文化にも種類が多く、好みも分かれる。なるべく多種多様な文化の場を提供したい。また、近年住民参加型の文化事業が出てきており整理統合はできない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 必要最低限の事業費であり、削減はできない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由 限られた人件費の中で効率を上げるよう努力を図っているためこれ以上の削減はできない。
	受益者負担は適正ですか。	はい ●いいえ	理由 今後受益者負担を増やそうと思うが、町民にお金を払って芸術を鑑賞するという風習がまだまだ浸透していない。その点の意識改革も含めて負担を増やすよう努力するべきである。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ計画を見直す必要はない。	
		有効性	事業回数を増やすことにより住民意識が高まり有効性を上げることができる。	
		効率性	現在のところ計画を見直す必要はない。	
	課題に向けた改善策	このまま事業を継続		
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり	
		有効性	町民が文化に親しみ、また自らも文化の担い手となって活動し、学習することは貴重なことである。今後も町民の文化活動を支援し、意識向上を図っていくこと。	
効率性		参加者が全人口に占める割合は6%前後であり、受益者負担を当然検討すべき。		

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
			事業費を見直して事業を継続					事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。